

3 大木地区の概要

位置と沿革

泉佐野市は大阪府の南部、大阪市と和歌山市のほぼ中央に位置し、大阪府南部を東西に貫く細長い市域を形成しています。その中で大木地区は、泉佐野市東南部に位置し、周囲を泉佐野市土丸、貝塚市、泉南郡熊取町及び和歌山県紀の川市と接しています。

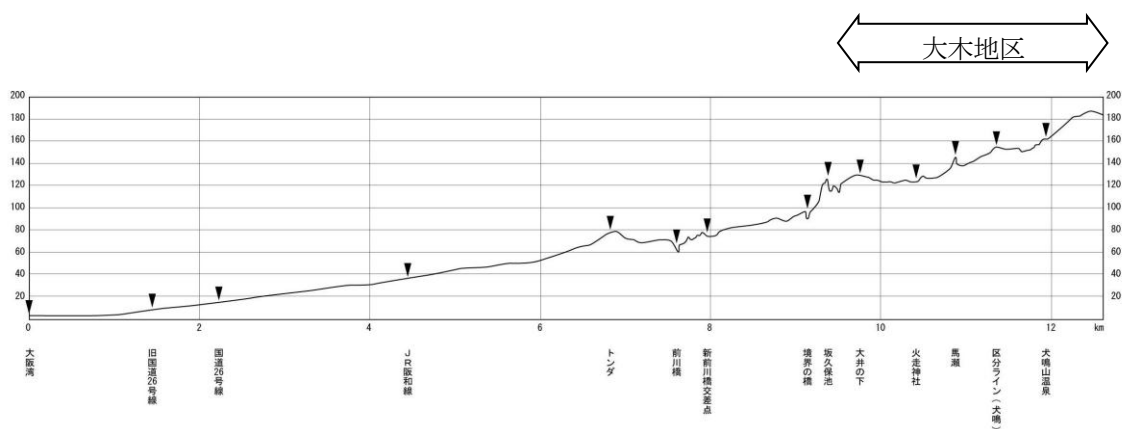
盆地内部を大阪から和歌山へ抜ける府道泉佐野打田線により周辺地域との往来も盛んにおこなわれています。泉佐野市街地から自動車ですら約15分～20分程度の距離にあたります。

大木地区は、和泉国日根郡に属し、中世には九条家領の日根荘の入山田村と呼ばれ、入山田村を構成する船淵・菖蒲・大木・槌丸の4つの小村のうち、船淵・菖蒲・大木部分に比定されています。近世には岸和田藩領の大木村となり、そのまま明治を迎えますが、明治22年の町村制により土丸村とともに大土村となり、昭和29年に泉佐野市へ合併し、泉佐野市の大字となっています。現在、大木地区は上大木・中大木・下大木の3つの町内会があります。

地形と気候

泉佐野市域は和泉山脈から大阪湾に至り、そのうち大木地区は、和泉山脈とその前山による盆地群に位置しています。それぞれの盆地を榎井川が貫流し、河岸段丘が形成されています。和泉地域は瀬戸内式気候に属しているため比較的温暖少雨であり、主たる河川である榎井川の流域面積が狭いため、総じて旱害になりやすくなっています。

大木地区は泉佐野市街地に比べ標高が約80m～150m高い山間地のため、平均気温も約1～2度低くなっています。

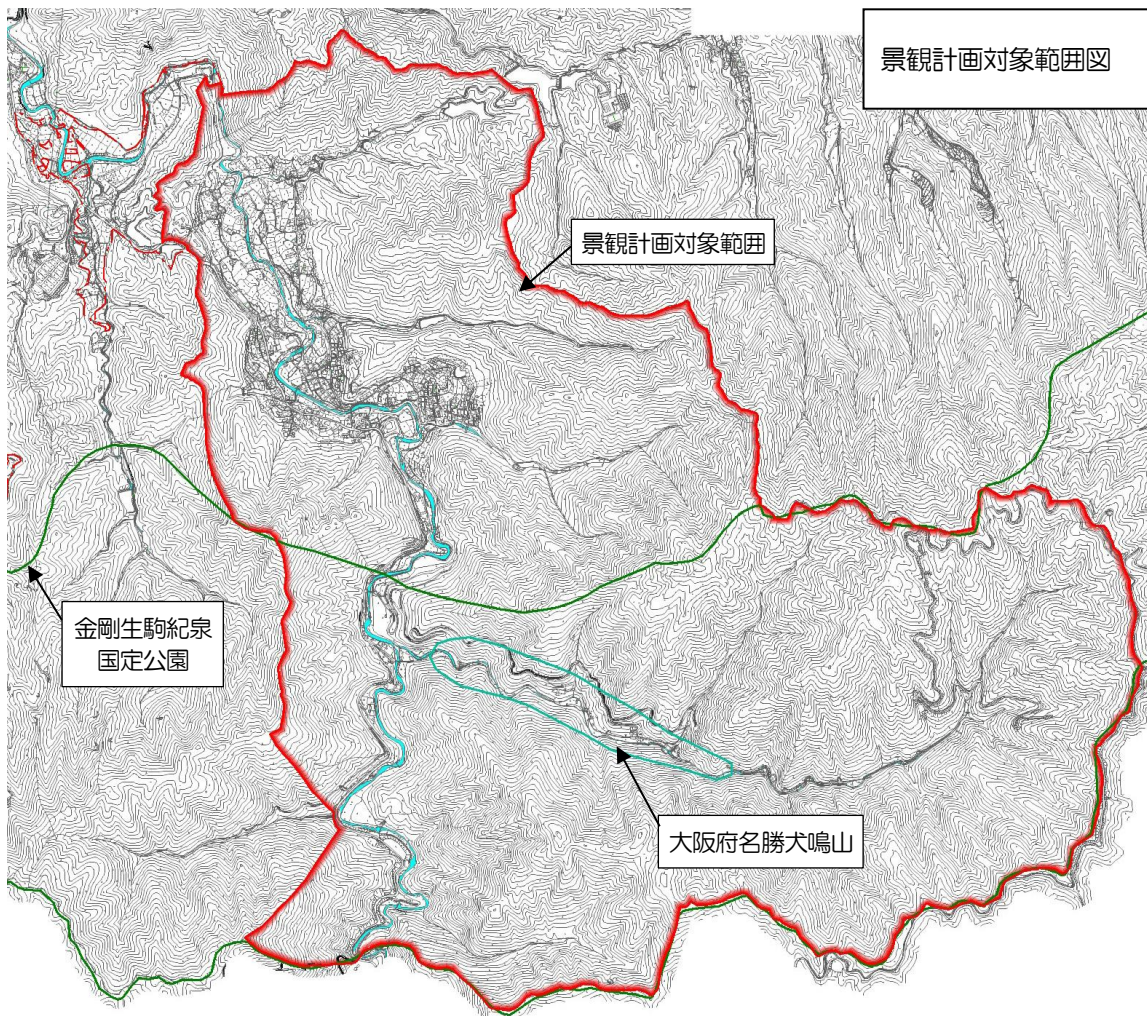


地域の概況

本計画の対象となる大木地区の主たる生業は稲作を中心とした農業で、スギ・ヒノキ等の林業や、近代以降設けられた繊維産業等の工場も立地しています。

盆地内の檜井川による河岸段丘面を活かした農地や集落と周囲の山々には、豊かな自然環境と農村風景が維持されています。対象範囲全域が市街化調整区域で、府県境の山々は金剛生駒紀泉国定公園となっています。

大木地区には国史跡日根荘遺跡(火走神社・香積寺跡・蓮華寺・毘沙門堂・円満寺・長福寺跡)や火走神社の摂社幸社本殿(国重文)、同本殿(市指定)、府規則名勝犬鳴山のほか、数多くの文化財が所在しています。



景観計画区域の景観特性

- | | |
|------------------|----------------------------------|
| ① 豊かな自然環境 | 地形環境
山なみの景観
水辺の景観
山林の景観 |
| ② 中世から受け継がれた土地利用 | 中世荘園日根荘の時代から受け継がれた土地利用
歴史的資源 |
| ③ 地域のくらしと産業 | くらしの景観
地域の産業 |

①豊かな自然環境

(地形)

泉佐野市の位置する和泉地域は、南東部の山地から北西の大阪湾に向けて、山地～丘陵～平野～海へと広がっています。山地は和歌山県との府県境となる、和泉山脈の山なみと前山と呼ばれる山々からなり、谷筋が深く入り込んでいます。丘陵部は前山と平野部に続く丘陵に分かれ、山地及び丘陵部には大小様々な盆地があり、平野部は台地と海岸に近い平野に分かれます。和泉地域では山地～海岸までの距離が短く、平野が狭くなっています。大木地区はこのうち山間部の盆地に位置しています。

(山なみ景観)

和泉山脈の和泉葛城山(標高858m)・三峯山(576.2m)・灯明ヶ岳(560m)・高城山(549m)等が平野部からの遠景として尾根筋を構成し、小富士山(259.8m)や雨山(312m)・土丸城山(287m)などの前山が近景の山なみを構成しています。大木地区では前山や和泉山脈の山々が盆地周囲に位置し、連続した山なみ景観を構成しています。

(水辺の景観)

和泉地域の河川は山地から海までの距離が短く、比較的流域面積が狭くなっています。泉佐野市の主要な河川である樫井川は流路延長16,321mで、上流部の大木地区では溪谷がみられ盆地内では河岸段丘を形成しています。特に犬鳴山七宝滝寺境内では行者の滝をはじめ数多くの滝があります。樫井川には盆地周囲の山々からも谷水が流れ込み、大きな谷筋ではそれをせき止めて設けられたため池がみられます。樫井川上流部ではアカザ、ヨシノボリ、ヌマムツ等の魚類や多くの水生生物が生息する環境が維持され、ホタル類の飛ぶ様子も見られます。

(山林の景観)

犬鳴山付近の山林はシイ・カシ林等の比較的自然林に近い状態の部分と、スギ・ヒノキ等の人工林が一体となって山の緑を形成しています。中には犬鳴山参道のスギの大木や、大木地区の名産品であったヤマモモ等特徴のある樹林もみられます。大木地区の植生は比較的外来種の移入が少なく、希少種や要注目種なども多数確認されています。和泉山脈は金剛生駒紀泉国定公園に指定され、犬鳴山七宝滝寺周辺は大阪府名勝に指定されています。大木地区の山林は建築用材や炭焼き等として利用されてきたほか、犬鳴山七宝滝寺周辺の山々は修験道の行場でもあり、地域のくらしや生業、そして信仰等、人びとの関わりにより維持されてきたものです。

山林は人との関わりによって維持されてきましたが、スギ・ヒノキ等の人工林は手入れに携わる人が減り、維持困難となり放置される可能性が高まっています。また盆地周囲の山裾部や、檜井川沿いの段丘崖等で竹林の増加が進み、多様な生態系の維持が困難になる可能性があります。



雨山から大木方面



長福寺跡から犬鳴方面



大木盆地の山並み



上大木周囲の山並み



犬鳴山



檜井川(上大木)

②中世から受け継がれた土地利用の歴史性

(中世荘園日根荘の時代から受け継がれた土地利用)

和泉地域では少雨の気候で、河川は流域面積が狭く、彫り込まれているため、水の確保が課題でした。そこで限られた水資源を活かすために、古くからため池の築造が盛んに行われ、鎌倉時代の日根荘日根野村の様子を描いた日根野村絵図にも描かれています。さらに主要な河川に井堰を設け、用水路を整備し、ため池と一体となって和泉地域の田園風景を創り出してきました。

山間盆地に位置する大木地区では、谷筋に設けられたため池や檜井川に設けられた井堰からの用水路が、それぞれ山裾や段丘崖の上部、さらに集落の中を通り灌漑する農地へと至ります。集落は比較的水田化されにくい場所、主に旧道に沿って位置しています。そのため河川・ため池・用水路等で構成される水系が基礎になり、盆地の中で山～農地～集落～(農地)～河川という土地利用がみられ、地域の農村景観を形成しています。これらの水系は中世日根荘の頃から受け継がれてきたもので、それによって構成される農村景観は荘園由来の貴重な景観です。

大木地区では、上大木の東ノ池周辺に広がる棚田状の耕地や、山裾部にみられる小規模水田、下大木の比較的広い段丘面を活かした耕地など、地形を活かしたさまざまな形態の農地が維持されています。これら農地の畦畔や段丘崖には川原石による石積みが多くみられ、秋には彼岸花が咲く景色が見られます。

農業従事者の減少、高齢化と、後継者不足等により、水田の維持が困難な状況になりつつあり、歴史性を有する土地利用の継続も困難になる可能性が高まっています。

(歴史的資源)

日根荘は鎌倉時代の天福2(1234)年に九条家の荘園として成立し、当初は泉佐野市全域がほぼその範囲となっていました。日根荘は「日根野村絵図」や「政基公旅引付」等の九条家文書や古文書資料や絵図等当時の様子を知る手がかりが豊富に伝えられていること、資料中に登場する寺社やため池などが現地で残していることなどから、日根荘当時の景観を今に伝える場所として知られています。

中でも大木地区は、九条家の領主九条政基が滞在し、『政基公旅引付』を記した場所で、旅引付やその他資料に記される場所が多く残されています。入山田村の総社であった火走神社をはじめ、6カ所の社寺堂(跡)が国史跡日根荘遺跡に指定されています。その他、大木地区には修験道の寺院として知られる犬鳴山七宝滝寺もあり、江戸時代の和泉名所図会の犬鳴山や火走神社の挿図や、大木村絵図(天保期)に描かれた当時の景観が、基本的に現在まで受け継がれています。



東ノ池と周辺の棚田



下大木の農地



畠田の農地



下平井井堰



和井



立花谷大池



檜井川と菖蒲井



立花谷小池



火走神社



毘沙門堂



円満寺



長福寺跡

③地域のくらしと産業

(くらしの景観)

泉佐野市域では佐野町場と呼ばれた在郷町をはじめとして、熊野街道や紀州街道、粉河街道などの旧街道沿いに古くからの集落が形成されています。大木地区では粉河街道(府道泉佐野打田線)や犬鳴山と水間寺を結ぶ水間道沿いに集落が形成されるほか、河岸段丘の段丘崖にそって屋敷地群がみられます。屋敷地内では基本的に平入りの母屋となっています、地形と前面道路との関係から妻入りの母屋もみられます。

母屋は茅葺き民家、腰上げ民家と称される瓦葺きのつし二階、瓦葺きの平屋等がみられ、瓦葺き屋根の集合が特徴です。瓦葺きでは和泉地域で多くみられるしころ葺き屋根、ムクリのついた屋根等の特徴を備えています。中でも破風を多く設けることや、「ツノ」や「キバ」と呼ばれる破風板を押さえる棒状の材を外から見えるようにし、意匠に凝ったものもみられます。

また屋敷地内には母屋に近接して付属屋が設けられることが多く、世帯構成や生業環境の変化等、世帯の住要求の変化に柔軟に対応する役割を担い、母屋と一体となって集落の景観を形成しています。

屋敷地には石積みが多く用いられ、現在でも集落内で水路沿いや道沿いで連続する石積みによってまとまりある景観が作られています。

しかしながら、人口の減少や高齢化等により旧来の母屋の維持が困難になりつつあり、空き家も増加傾向となっています。

(地域の産業)

古くから和泉地域では農業・林業などが主要な産業でした。農業では稲を中心に裏作として麦や甘蔗、タマネギやタバコの栽培等が盛んに行われ、タマネギ栽培で使用される「タマネギ小屋」「ネギ小屋」と呼ばれた農作業小屋は現在も数多く点在し、和泉地域の特徴ある景観を創り出しています。たばこ栽培は、現在では集落内にわずかに残るたばこ乾燥小屋からその様子をうかがうのみとなっています。

林業では、かつて木材や薪炭などが盛んに出荷され、盆地周囲の山から和泉山脈の山並みを構成する山々までスギ・ヒノキ等の植林が行われています。山から切り出した材木を加工する製材工場も集落内に所在しています。

近代以降、和泉地域では和泉木綿産業を背景とした織物業や繊維業が盛んになり、泉佐野市域では海手の佐野町場とその周辺を中心にタオル工場や関連工場が数多く作られました。こうした近代化の波は山手へも広がり、和泉地域と和歌山北部地域を結ぶ幹線道路が通る大木地区でも織物工場が作られ、屋敷内にも下請け用の出機のための作業小屋が作られてきました。

一方、犬鳴山周辺では、近代以降大阪近郊の観光名所として犬鳴山七宝滝寺に、温泉開発とレクリエーション拠点としての開発が進み、古刹と自然環境と温泉が揃う、観光拠点を形成しています。

しかしながら、農業も農家数の減少、自家消費が中心となったことにより作付面積も減少傾向となっています。繊維・織物業は低迷し、泉佐野市内でも工場数が減少し、山林からの材木の出荷も低迷するなど、地域産業の継続が困難になりつつあります。



茅葺民家



水間道沿いの民家



瓦葺き平屋(しころ葺き)



破風とツノ(キバ)



石積み



府道沿いの民家



製材所



たばこ乾燥小屋



犬鳴山温泉街



工場



たばこ乾燥小屋



元織物工場